

第43回 (2021年度) 公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当財団の事業運営に関しまして格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集もお蔭をもちまして順調に推移し、この度、第43回の募集を行う運びとなりました。

つきましては、スポーツ関連科学に関する学術の研究を奨励・援助し、健全な体育・スポーツの振興・発展に寄与するため、2021年度スポーツ科学学術研究公募を下記の要領にて実施いたしますので、多数ご応募頂きますようお願い申し上げます。

募集は二部に分け、第一部は、より時代を先取りした研究を奨励するために当財団の定めたテーマによる課題学術研究への助成、第二部は、自由課題による学術研究への助成といたします。

なお、当財団の研究助成の大きなねらいは、いわゆる高度にアカデミックなものというより現実に役立たせ得る研究に焦点をおいているということと、明らかな疾病に対する運動療法的なものよりも健康者もしくは半健康者の積極的な健康増進を意図するものを優先する立場をとっていることを念のため申し添えさせていただきます。

敬 具

2020年9月

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団

学 術 研 究 募 集 要 項

主 催 : 公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL FOUNDATION
FOR THE PROMOTION OF SPORTS SCIENCE

応 募 資 格 : ①体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術、およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学、およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
この場合、運動生理学的研究でなくとも、あくまで教育現場に於ける身近なテーマで、すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
但し、研究報告等に不慣れな人は、報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。

学術研究テーマ : 第一部 課題学術研究
本年度テーマ

- ①「暑熱環境下における快適性を実現する手法に関する研究」
年々過酷さを増す夏の環境下において、スポーツウェア、用品の暑熱環境下における暑さ対策は一層重要になっています。スポーツウェア、用品における暑熱環境下での快適性を実現できる幅広い視点からの提言を頂きたい。
- ②「運動時におけるウェアの快適性実現の手法、あるいは快適性を定量化する新たな手法や指標に関する研究」
運動前、運動中、運動後において、また外部環境により衣服内の環境は温度、湿度、発汗などにより大きく変化する。スポーツウェアの快適性を幅広い領域に対して実現する手法、ならびに快適性に寄与する機能性の新たな定量方法や指標に関する提言を頂きたい。
- ③「運動後のリカバリーに有効なクールダウンを実現する手法に関する研究」
運動後のリカバリーはトップアスリートから一般の愛好家まで、スポーツの楽しみを継続するうえで非常に重要です。運動後の疲労回復や運動パフォーマンスの維持向上のための「運動後のリカバリーに有効なクールダウン手法」について提言を頂きたい。
- ④「運動時におけるウェアに関するシミュレーションシステムの構築」

(衣服圧、エアロダイナミクス、衣服内温湿度分布など)

スポーツウェア、用具の開発は実際の人の運動を物理的あるいは生理的に評価し進めることが多いが、開発の精度を上げていくために、あるいは効率化していくために、シミュレーション技術を利用することが不可欠です。

スポーツ時の身体周りの流体シミュレーション(流水抵抗、空気抵抗)や衣服内の温湿度分布シミュレーション、衣服圧シミュレーション等、スポーツウェアの開発に有効なシミュレーション技術の構築について提言を頂きたい。

第二部 自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり、申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって、調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法 : **本年度の公募締切日は2020年11月6日です。**

応募者は、所定の申請用紙に研究テーマ、第一部・第二部の区分、目的、内容および期待される成果等を簡潔に書き、2020年11月6日(当日消印有効)までに書面にて下記宛提出すること。
(申請書は所定用紙または当財団ホームページより、B4サイズにてダウンロードしたものとする。但し所定用紙をコピーし使用する場合、第43回申請書をコピーのこと、自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと)

(応募書類 送付先 資料の請求および問い合わせ) 〒567-0086 大阪府茨木市彩都やまぶき2-3-2 デサント ジャパン(株) DISC OSAKA 内
公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団 編集局
TEL 072-649-0910 FAX 072-649-0920
ホームページアドレス <http://www.descente.co.jp/ishimoto/>
E-mail zaidan@descente.co.jp

助成者の
入選内定通知 : 研究助成の対象として採択された研究者に対し、当財団より書面にて本人宛通知する。
(2021年3月下旬の予定)

なお、入選されなかった方には、4月上旬までに本人宛通知する。

助成金の交付 : 第一部「課題学術研究」
1件100万～200万(研究期間別途設定、件数2～5件)

第二部「自由課題学術研究」
最優秀入選100万円、優秀入選50万円 20件を予定

受賞者は、2021年6月に贈呈式にて発表し、助成金は、7月30日までに交付する。

なお、研究助成は個人またはグループを対象とし、所属機関の間接経費、一般管理費は助成の対象にしない。

報告書の提出 : 選考の結果、助成金の交付を受けた者は、所定の様式で原稿用紙550字詰22枚前後(図表類を含む)の研究成果報告書(Abstractを含む)を下記期日までに当財団に提出すること。提出された報告書は、当財団の学術委員が査読を行ない、その結果再考・検討を依頼することがある。

第一部 研究期間により別途設定

第二部 2021年10月29日

また、同時に研究助成金使途報告書を提出すること。詳細は入選者に別途通知する。

留意事項 : ①研究結果の報告を主とした場合でも何等かの結論や主張を体系的に述べること。
また、客観性を具えた内容と記述であるよう留意すること。
②原則としてテーマは、一度の報告で結論、主張がまとめられること。
(Part I、Part II、または第1報、第2報の形式は採用しない)
③第一部自由課題学術研究は入選内定より報告書提出まで、短期間(約7ヵ月)のため、新たに研究を開始するのではなく、これまで実施してきた研究に助成することにより、発展または充

実が期待される内容であること。

- ④申請書に記載の研究課題や応募者名および共同研究者名は報告書提出時に変更できない。
共同研究者が多数にわたる時は、主たる共同研究者は4名以内として表記のこと。他の共同研究者や新たな共同研究者が生じた場合は、報告書末尾に謝辞として記載することとする。
- ⑤応募は、研究者1名につき1件のみとする。
- ⑥研究助成金交付申請書の提出にあたり、記載漏れ、押印漏れがないように注意すること。記載漏れがある場合、所定の期日までに修正されない場合受理しない。
- ⑦推薦者欄は記入必須。推薦者の規定は特になし。

- そ の 他 :
- ①研究成果の報告書は、学術委員により査読の上、2022年6月発行予定の機関誌「デサントスポーツ科学」Vol.43及び「産学連携情報提供支援データベース」に掲載する。但し、機関誌への論文掲載については、審査を行い決定する。(第一部入選研究については研究期間により掲載年度を決定)
 - ②研究助成の対象として採択された研究課題に対する助成金の配分は、当財団において決定する。
 - ③入選者より提出された成果報告書の著作権は、本財団に帰属する。当該報告書の他への発表は、必ず当財団の承認を得た上、「デサントスポーツ科学 Vol.43」より引用の旨を併記すること。また、「デサントスポーツ科学 Vol.43」発行以前に他への発表は差し控えること。(第一部入選研究については掲載巻を記載すること)
やむを得ない場合には、必ず事前に当財団まで連絡の上、財団事務局の指示に従うこと。
 - ④申請書への内容記入は、鉛筆書きは不可とする。
 - ⑤申請書提出後、所属機関および自宅の住所、電話番号など変更の場合は、速やかに書面で当財団編集局まで連絡のこと。
 - ⑥研究テーマは、下記の項目に従って分類し、申請書の分野欄※に該当記号を記入すること。
A：スポーツと安全 B：運動生理 C：バイオメカニクス
D：医療・看護 E：トレーニング F：食物・栄養
G：用具・被服 H：体育活動調査 I：障がい者スポーツ
注1：障がい者スポーツ・・・障がい者スポーツの普及・発展を目的とし、障がい者スポーツ医科学研究、及び関連する衣服・器具等の研究、調査を対象とする。
 - ⑦申請書は選考事務に支障なきよう、折りたたむ場合は、二つ折り（B5サイズ）までとする。
 - ⑧「デサントスポーツ科学」はその内容をインターネットで当財団ホームページから公表する。
 - ⑨報告書の内容がタイトル、実験内容、研究者などで公募時の研究助成金交付申請書の内容と著しく異なる場合、理由を機関誌に掲載の上、論文の不掲載・助成金の返却等を求めることがある。

学 術 委 員	委員長 佐藤 祐造 (愛知みずほ大学特別教授)	委員 田畑 泉 (立命館大学教授)
(敬称略順不同)	委員 井上 真理 (神戸大学大学院教授)	委員 田村 照子 (文化学園大学名誉教授)
	委員 緒方 徹 (国立障害者リハビリテーションセンター病院 障害者健康増進・運動医科学支援センター長)	委員 永富 良一 (東北大学大学院教授)
	委員 押田 芳治 (南医療生活協同組合総合病院 南生協病院健診ドックセンター長)	委員 西村 太良 (京都工芸繊維大学元教授)
	委員 梶原 莞爾 (信州大学繊維学部コーディネータ)	委員 檜垣 靖樹 (福岡大学教授)
	委員 上條 正義 (信州大学教授)	委員 平田 耕造 (神戸女子大学教授)
	委員 川原 貴 (一般社団法人大学スポーツ協会副会長)	委員 廣田 孝子 (アンチエイジング研究所所長)
	委員 島崎 恒藏 (日本女子大学名誉教授)	委員 福永 哲夫 (鹿屋体育大学特任教授)
	委員 下光 輝一 (公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長) (東京医科大学名誉教授)	委員 藤本 繁夫 (相愛大学教授)
	委員 下村 吉治 (中部大学教授)	委員 吉岡 利忠 (弘前学院大学学長)
	委員 田島 文博 (和歌山県立医科大学教授)	

【研究の実施について】

人を被験者とする研究を行う場合は、学内の倫理委員会または倫理委員会がない場合は、これに準じる機関の事前承認を得たのちに実施すること。

【個人情報取扱いについて】

申請書、報告書に記載された個人情報については、選考審査等の当財団に関連する活動の範囲内で使用する。また、採択された研究者（申請者、共同研究者を含む）の個人情報については、助成結果の公表時、および当財団ホームページへの掲載時等に使用する。

